事務事業評価表

平成14年度	主要事業	計画対象の有無 │無 ▼ │	電話 0 4 2	2 (7 5 5) 0 6 0			
担当部課名	生涯学習部	▼ 星が丘公民館 ▼					
事務事業名	事業コード	15120					
1 総合計画における位置づけ							
政策名第	5 章	いきいきとした生涯学習社会をつくります		事業開始年度			
基本施策名第	1 節	生涯学習の推進		- □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
施策名第	1 施策	生涯学習機会の充実、生涯学習活動の支援		十段			
2 実施根拠及び関連法令等							
社会教育法、公民館条例、同施行規則							
3 事業概要							

(1)事業の目的	(2)対象(誰、何)
市民のライフステージに対応した多様な学習機会の充実に努めるとともに様々	
ズに対応した公民館事業の展開を図る.また、総合学習センターなど他の施設	との連
携を進め、機能の充実を図る	
	対象
	数
()	動計画における概要
・公民館運営審議会の開催 4回	
・公民館各種事業の展開	

(5)個別計画の概要 計画名 計画年次 年度~ 年度

4 評価指標

指標名	公民館利用率の達成率	
	各年度の公民館利用者数 / 各年度の公民 館開館日数	
	生涯学習機会の充実を公民館利 用率により成果を表す	

5 目標と実績 (金額単位:千円)

)	」 口信し大視							「本観手位・十门」
	/	平成11年度	平成12年度	平	成13年度(訂	平価文	対象年度)	平成14年度
		実績	実績		実績		目 標	目標
	指標	123.9	120.9	а	134.7	Ь	134.0	140.0
	指標			C		đ		
	指標			е		f		
	決算 (予算)額	2,672	2,627		2,580		2,580	2,403
事	人員・時間数	6人	6人		6人		6人	8人
業	人 件 費	26,661	26,671		26,726		26,726	24,311
赤	その他経費							
	合 計	29,333	29,298		29,306		29,306	26,714
!	持定 財源	0	0		0		0	0

6 個別評価

6 個別評						
(1)達成度	g・・・目標をどれだけ遠	を成したか	1			
評価	A:達成している	('	100%)			
A 🔻	B:一部達成していた	ll(100%	> 80%) = ,	、 の平均値 =	100.5%	
,	C : 達成していない	(80%>)			
а	134.7	•	C		е	
<u>а</u> b	134.0 × 100=	: 100.5%		−× 100=	f	──× 100=
D		. 田休土堆	<u>□ u</u> 記、利用率は年々上がっ [°]	アリス	<u> </u>	
理由:	当公民語利用サーブル	・団体で増	元、利用学は牛々工がり	CVIS		
(2)必要性	せ・・・・時代変化に適応	」た事業[内容か			
評価	A:適応している	理由:	学校週5日制をにらん7	で、公民館の青少	年事業の企画・実施	を行っている
A -	B:一部適応していない					- 10
	C:適応していない					
(3)経済性	生効率性・・・費用対効	果は妥当	 当か			
評価	A:妥当である		現在は、公民館の使用	料は無料としてい	るが、受益者負担の)観点から今後は有
В	B:一部妥当でない]	料化の検討も必要と考			
	C:妥当でない	1				
(4)事業O	D代替性···県、民間の	の役割	分担のあり方から見て、	市が実施していく	ことが適当か	
評価	A:代替の可能性ない	理由:	地域に根ざした公民館	として、今後もます	ます公民館の本来の	の役割として事業の
	B:代替の可能性低い		実施を図っていく必要が			
	C:代替の可能性高い		7,150H 7 (7, 1, 2, 2, 1	, .		
(5)市民流	満足度・・・対象市民の	満足は得	られているか			
評価	A:満足できる	理由:		ぎり 公民館事業	についてはかなりの	満足度はえられてい
A -	B:一部満足できない	- H	3	C // 公1/10加于木	12 2 4 . 6 10/13 .0 7 0 7	71-72-12-10-72-5-10-60-1
, , , , ,	C:満足できない	1				
(6)有効性	生・・・・当該事業は上位	の施策を	実現する上で有効か			
評価	A:有効である		今後も身近な社会教育	施設として その2	役割けますます重要	性が増すと思われ
A 🔻	B:一部有効である	- Ξ μ.	3			
Λ •	C:有効でない		8			
	C . 13/1/ C . 64 .			成果向上の余地	1	
評価バ	^{ブランスチャート ^達}	成度		ル木門工の赤地	· 説明:	
	A	_		□ ある		民間事業をめざし、よ
	В			ଜ ଅ ଷ୍ଟ		えじず来をめるし、よ の向上を目指してい
	有効性	Ţ `	必要性	一ない	17017で707的円空	の同工を自担りてい
	· c	ļ ,			`	
		\times		コスト改善余地		
		X	/	コスト以音示心	説明:	
	/ C	† >		口ある	受益者負担の考え	亡から今後は右判
	市民満足度		× 経済性·効率性	 		
	B	Ť		- to 11	化の検討も必要となる	7.0
	А	1		□ない		
		」 D代替性				
= hn +++						
7 総合評(1				
	Λ -					
	A ▼	他自治				
評価		体の類				
		似事業				
		との比				
ধ	今後の進め方	較				
	継続	<u> </u>				
✓	REE ROG		今後も社会教育施設と	して、その役割は	ますます重要性が増	すと思われる
Е	見直し]		-, >		= . =
	元旦 し					
	pic IL	説明				
	廃止	1				
	完 了					
	元 J	<u> </u>				
	ー 画における変更点					